

YKK株式会社／YKK AP株式会社

〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1

URL <http://www.ykk.co.jp>

〈お問い合わせ先〉

YKK株式会社 環境グループ

〒938-8601 富山県黒部市吉田200

TEL: 0765(54)8161 FAX: 0765(54)8149

E-mail: kankyo@ykk.co.jp

YKK

Social & Environmental Report 2014

YKKグループ 社会・環境報告書2014

人類の豊かで健康な生活と環境との
調和を目指して

表紙について

表紙テーマは、「未来への明るい希望を抱き、将来の夢を見つめる次世代を担う子ども」です。

YKKグループは、次世代の子どもたちが豊かな社会生活を送ることができるよう、社会とかわり、課題を共有し解決に向けて取り組むことで社会の発展に貢献していきたいと考えています。

その思いを反映すべく、シャボン玉で子どもたちの想像力を、地球ロゴマークで子どもたちの夢に寄り添うYKKグループを表現する表紙内容としました。



この報告書は森林認証紙を使用しています。



ともに価値を創出する、 YKKグループのものづくり

YKKグループは、本業を通じ、地域社会、お客様、従業員とともに価値を創出し、共有できるものづくりにより、持続可能な社会を目指しています。

目次

- 2 トップメッセージ
- 4 YKKグループについて
- 6 YKKグループのものづくり
- 10 各極の取り組み
 - ・日本
 - ・アジア
 - ・中国
 - ・EMEA (ヨーロッパ・中東・アフリカ)
 - ・北中米
 - ・南米
- 22 環境への取り組み
- 26 ステークホルダー・ダイアログ
- 29 YKK精神と経営理念

編集方針

幅広いたくさんの方々がこの報告書を通じてYKKグループを知っていただきたいという思いから、基本的な考え方を記載した冊子版(本誌)と、数値情報などを開示するWeb版に分離し公表しています。

Web版もご覧ください。

<http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/csr/eco/report/index.html>

また、この冊子は紙のリサイクルに適した材料のみを用いて作成しています。不要となった際は、製紙原料となりますので、古紙回収・リサイクルが可能です。

対象範囲

YKKグループ(YKK株式会社、YKK AP株式会社、海外主要生産拠点など)

対象期間

2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)

2014年6月発行 次回発行は2015年6月を予定しています。

配布場所：YKK黒部事業所内「YKK 50ビル」受付、YKK APショールームにて配布しています。また、インターネットでは、エコほっとラインにて発送のお手続きを承っています。(http://www.ecohotline.com/)

印刷：YKK六甲株式会社(YKKグループ 印刷事業特例子会社)

「YKK精神に基づく企業の社会的責任」

YKKグループは本業を通じた 持続可能な社会への貢献に取り組んでまいります

YKKグループは、創業以来、“他人の利益を図らずして自らの繁栄はない”という思想のもとづくYKK精神「善の巡環」を全事業を貫く精神的支柱としてきました。企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ持続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。私たちは事業をすすめるにあたり、この点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えてきました。それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり、社会貢献できるという考え方で、この「善の巡環」の精神を根幹とし、経営理念である「更なるCORPORATE VALUEを求めて」のもと、「公正」を行動の基軸として、世界71カ国／地域で現地に根ざした事業を展開しています。

企業市民としての社会的責任

私たちには、企業市民としての責任があり、公正な企業経営を実践していくためにもこの責任を真摯に受け止めています。今、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。国際社会においても文化や慣習、考え方などの多様性を尊重し、事業活動を通して社会の発展に貢献する責務があります。エネルギー使用を少なくするものづくりを推進するとともに、小さなエネルギーで快適に暮らす「小エネ（ローエネ）」を追求し、これを高いレベルで実現することは未来への責務だと考えています。YKKグループは、YKK精神「善の巡環」、そして経営理念「更なるCORPORATE VALUEを求めて」の実践を通して、これからも本業を通じた持続可能な社会への貢献に取り組んでまいります。

2014年6月



YKK株式会社 代表取締役会長CEO
YKK AP株式会社 代表取締役会長CEO

吉田 忠裕

「持続可能な社会づくり」に貢献

YKK株式会社の実践するグローバル事業経営は、YKK精神「善の巡環」、経営理念「更なるCORPORATE VALUEを求めて」のもと、一貫して「公正」であることを、経営における行動指針としています。

海外展開においては、その国で「土地っ子になれ」を合言葉に、その国に根付き、現地のマーケットや顧客に応じた事業活動に知恵を絞り、現地人材を雇用・育成・登用して、経営を委ねるなど、「信用・信頼」を基盤にした、社会との長期にわたる強い関係づくりの中で、ビジネスの成長を通して地域社会に貢献してまいりました。

環境活動においても、世界71カ国／地域を網羅する情報連絡体制、責任体制を整備するとともに、国ごとに異なる環境関連法への対応を確実にするために、地域単位でのコンプライアンス体制を構築しています。

エネルギー改革の推進、「YKK Group Tree Planting Day」などによる多様な生態系の保全、資源の有効利用等、環境負荷の低減に努めています。

また、生活に密着した商品を製造・販売していることから、お客様のみならず、最終消費者のニーズも追求することで、YKKの商品が衣類や産業資材などの付加価値向上に貢献できるよう、お客様にとって価値ある「品質」を実現するためのものづくりを進めてまいりました。

YKK株式会社はこれから更に商品力と提案力、それを支える技術力をもって、人と社会へ価値を提供し、事業活動を通して地域社会に貢献し、持続可能な社会づくりを目指してまいります。



YKK株式会社
代表取締役社長
YKK環境政策委員会
委員長

猿丸 雅之

「商品からものづくり」まで

YKK AP株式会社は、快適な住空間を創造する「窓やドア」、美しい都市景観を創造する「ビルのファサード」など、さまざまな建築用プロダクツを通して、これからの時代にふさわしい事業価値を創造し、暮らしと都市空間に、先進の快適性をお届けする企業を目指しています。

昨今では電力の需給問題に際して、住環境における省エネ性能が特に重要視されています。YKK AP株式会社は、「メーカーに徹する」という方針のもと、生活者視点でのものづくりにこだわり、家庭やオフィスのエネルギー削減に向けて遮熱、断熱、通風など省エネ機能を高めた商品を積極的に開発し、地球環境にも優しい快適な住環境を創り出したいと考えています。小さなエネルギーで快適に暮らす「小エネ（ローエネ）で暮らそう」をコンセプトとし、高い断熱性能を持つ窓を中心に、その周辺の商品も含めた窓辺空間を考え、使い方と合わせて提案していきます。

また生産工程においては、生産ラインの更なる効率化と工場の耐震・省エネ化を図るとともに、商品輸送時の効率化、ゼロエミッション活動を展開することにより、低炭素・循環型社会の実現に寄与し、自然環境と調和する“ものづくり”を目指します。

商品と品質、そしてものづくりにこだわり続けるメーカーとして、住宅環境の更なる向上につながる商品をお届けすることで、新しい価値を創造し、より豊かな社会づくりに貢献していきたいと考えています。



YKK AP株式会社
代表取締役社長
YKK AP環境政策委員会
委員長

堀 秀充

世界6極経営体制で事業展開をしています。

YKKグループは、世界6極による地域経営を基本とし、現在71カ国／地域で事業活動を行っています。その経営体制は、世界の事業エリアを北中米、南米、EMEA(ヨーロッパ・中東・アフリカをカバーするエリア)、中国、アジア、そして日本の6つのブロックに分け、地域ごとの特色を活かしながら各社が主体となってグローバル事業経営を展開しています。

**71カ国／地域で展開
従業員約4万人**

各極の取り組み

- 日本 p.10
- アジア p.12
- 中国 p.14
- EMEA p.16
- 北中米 p.18
- 南米 p.20

【YKKグループ】

事業内容 ファスニング・建材・ファスニング加工機械
及び建材加工機械等の製造・販売
グローバル体制 71カ国／地域 108社
国内20社 海外88社
従業員 40,708名(国内17,229名 海外23,479名)
(2014年3月末現在)

**ファスニング事業・AP事業を中核とした
グローバル事業経営体制**

YKKグループの経営体制は、中核となるファスニング事業とAP事業、そして両事業の一貫生産を支える工機、3者によるグローバル事業経営と、世界6極による地域経営を基本としています。



「持続可能な社会づくり」に貢献 (YKK株式会社)

生活に密着した商品を製造・販売していることから、お客様のみならず、最終消費者のニーズも追求することで、YKKの商品が衣類や産業資材などの付加価値向上に貢献できるよう、お客様にとって価値ある「品質」を実現するためのものづくりを進めています。

「商品からものづくり」まで (YKK AP株式会社)

快適な住空間を創造する「窓やドア」、美しい都市景観を創造する「ビルファサード」など、さまざまな建築用プロダクトを通して、これからの時代にふさわしい事業価値を創造し、暮らしと都市空間に、先進の快適性をお届けする企業を目指しています。

「安全・安心」へのこだわり

創業80年を迎えたYKK。創業当時からYKKファスナーは徹底した品質管理と供給体制により、世界各地で信頼を確立してきました。開閉という機能を追求しつつ「安全・安心」という面での品質にもこだわり続けています。



「小エネ(ローエネ)な暮らし」を提案

窓は住まいにおいて最も熱の出入りが多い場所ですが、同時に光や風の入口でもあります。YKK APIは、自然の恵みを上手に利用しながら、小さなエネルギーで快適に暮らす住まいを提案しています。



サプライチェーン全体で責任を果たす

「安全・安心」と「コンプライアンス」。これらを証明することは、「YKKの品質」に対する信頼向上にもつながります。

生産工程の有害物質使用、製品残留による健康被害、工場での労働災害がアパレル業界で問題となっています。ファスナーなどファスニング商品でも、品質や機能、デザインだけでなく、材料の調達や生産工程の健全性を示すことが必要です。調達には、「有害物質を含まない、安全な製品を提供する」「不適切な製造工程や労働環境にかかわらない」という2つの側面があり、ファスニング事業では自社内の取り組みを調達先にも広げ、企業の社会的責任を果たす努力を続けています。

2007年より、材料調査の結果から製品含有物質を迅速に確認できるシステムを運用しています。さらに2013年には、環境、人権、労働慣行などの社会課題に関する確認体制が発足しました。原材料からの一貫した管理を工程管理に広げるにより、「YKK品質」に対する更なる信頼の獲得に努めます。



快適な住まいの窓やドアから、環境に優しいカーテンウォールまで

住環境の向上につながる商品を通じて、持続可能な社会づくりに貢献します。

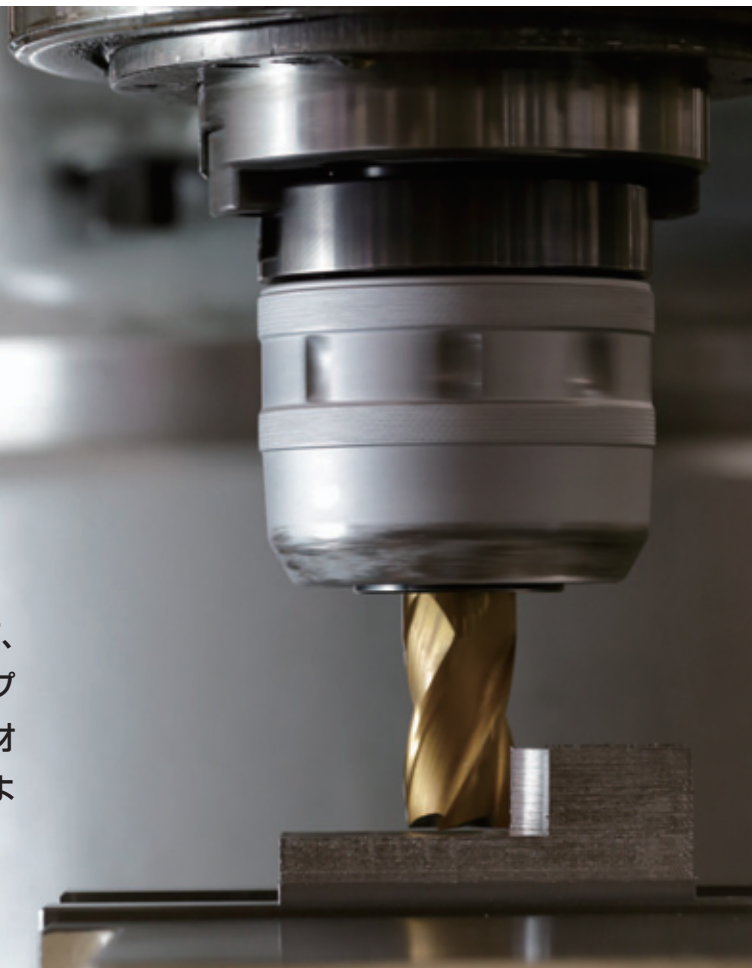
住まいにおける省エネ性能が重要視される中、YKK APIは、樹脂窓をはじめとする高い断熱性能をもつ窓商品や、省エネに配慮したカーテンウォールなどの開発に取り組んでいます。商品だけでなく、溶接を用いないサッシ施工方法「非溶接工法」など環境負荷の少ない建築技術開発も注力分野です。海外でも、各地の気候やニーズに合わせた商品・サービスの提供により、グローバルブランドとして認知度を高めています。

さらに、循環型社会構築のため取り組んでいるのが、廃棄物等の発生抑制、再使用、再生利用の3R活動です。商品だけでなく、ものづくりの過程でも、持続可能な社会づくりに貢献します。



技術の中核として

工機技術本部は、YKKグループの技術の中核として、「機械開発」と「機械製造」の両面から、YKKグループの成長・発展に貢献しています。YKKグループは、材料から製造設備、製品に至るまでの一貫生産体制によりグローバルに成長してきました。



多様な人材で大きくなる

YKKグループでは、人事理念「自律と共生」をベースに、年齢・性別・学歴・国籍・障がいの有無などに関係なく、実力や意欲に応じて任された役割において、社員一人ひとりが十分に力を発揮できる制度や環境づくりを進めています。



グループ事業競争力の向上に向けて

技術開発力を強化し、ファスニング事業・AP事業の高い製品品質とコスト競争力を支えています。

工機技術本部では、材料開発、設備開発、機械部品製造により、ファスニング事業・AP事業向けの専用機械を国内外のYKKグループ各工場に供給しています。専用機械を供給するために必要とされる強化すべき要素技術については、自社内開発による深耕を図る一方で、企業・大学との連携による社外技術の導入を進めます。

2013年度からは電力使用量20%削減を目標に新規設備の開発に取り組んでいます。さらに、5年後・10年後を見据えた自動化による生産効率を実現し、日本国内でも競争力を維持・強化できる生産体制を目指します。

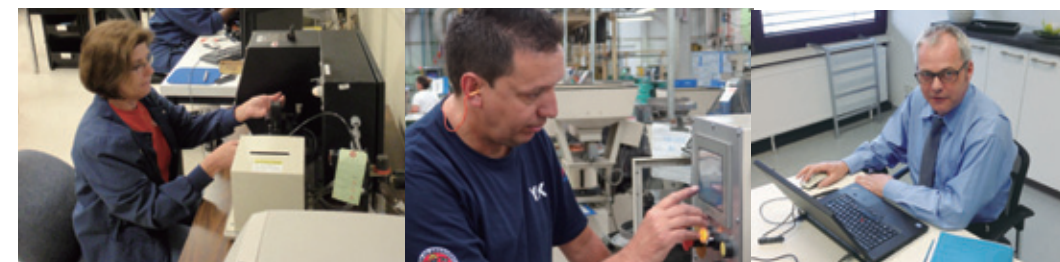
そのために、築50年が経過した工機部品工場の再構築として、使用電力の削減や精密部品の安定生産に対応可能な新工場を建設します。新工場は2015年度中に建設を終え、2016年度中に本格稼働する予定です。



ともに価値を創造できる「森林集団」の育成

背の高い木も、低い木も。それぞれの個性によってその得意とする能力を発揮できる人事制度の実現と人材育成に取り組んでいます。

YKKグループは、「森林集団」という、創業者 吉田忠雄から受け継いできた考え方があります。「森林の中には、経験を積んで年輪を重ねた太い木も、若くて細い木もあります。背の高い木、低い木もあります。人によってそれぞれの個性によってその得意とする能力を発揮して働き、一緒に前進します。」社員一人ひとりが自律的に働けるよう、YKKグループは真に公正な人事制度の実現と人材育成に取り組んでいます。





つなげよう、育てよう、未来へ

震災から復興、その先の持続可能な社会づくりへ。その実現に欠かせないのが、地域社会と企業との協働です。そうした考えのもと、YKKグループでは、事業を通じて「自然・地域社会との共生」といった新しい価値観を地域と共有し、ともに創出する活動を続けています。

未来に向けた持続可能な暮らしを提案

黒部発、ローエネルギーの「まちと住まい」づくり

YKKグループでは、事業活動および企業の社会的責任と地域貢献の一環として、東日本大震災以来、事業所内外のエネルギー問題に積極的に取り組んでいます。

富山県黒部市のYKK茅堂社宅跡地に、“パッシブデザイン”という建築手法を取り入れたYKKと専門家との協働による「パッシブタウン黒部モデル」開発プロジェクトが始まりました。

“パッシブデザイン”とは、建物性能を高め、太陽や風などの自然エネルギーを活用して冷暖房使用を抑制しながら、快適な室内環境をつくる建築設計手法です。

本プロジェクトでは、2025年までに250戸の複合型賃貸集合住宅を整備する予定です。第1期計画では、地上3階、地下1階の住宅棟2棟と商業棟を整備。2014年7月に着工、2015年9月完成予定です。太陽熱や地中熱、バイオマスボイラーを冷暖房や給湯に利用し、在来エネルギー消費全体の60%以上の削減（一般的な北陸地域集合住宅比）を目指します。

この“パッシブデザイン”と黒部の自然が持っているポテンシャルを最大限に活かした、これからの持続可能な社会にふさわしいローエネルギーの「まちと住まい」づくりに取り組んでいます。



「パッシブタウン黒部モデル」全景イメージ



サンテラスイメージ「自然を楽しむライフスタイルを提案」



商業棟イメージ「託児所も整備し、働きやすい、暮らしやすいまちを実現」

森づくりと連動した教育支援活動

森を育て、人を育てる

黒部事業所では、黒部の原風景の再生を目指し、敷地内の「ふるさとの森」「ふるさとの水辺」づくりに取り組んでいます。この自然を活用した社会貢献を目的に環境教育(ESD※1活動)を行っています。

2013年の活動では、NPOとの協働により「とやまエコキッズ探検隊」※2を開催。森の役割に関する授業のほか、YKKグループの森づくりの紹介や、ファスナー手作り体験、木工教室を楽しみました。

※1 Education for Sustainable Developmentの略。ユネスコが推進する持続可能な社会づくりのための教育。

※2 次世代を担う子どもたちを対象に地球温暖化やごみの問題、水環境保全について、学習や体験を通じて、楽しみながら、学んでもらうプログラム。



木工教室

「災害に強い工場」で高性能断熱窓を供給

東北と六甲に、新しい窓工場

YKK AP東北事業所は、東日本における中核事業所であり、東日本大震災を経験し、ものづくりの競争力強化と災害に強い事業所への再構築を行っています。その起点となる新工場棟「窓工場」が2013年7月に着工、2014年8月に操業開始予定です。「災害に強い工場」をコンセプトに、タイムリーな商品供給を安定的に継続できる工場を目指します。

さらに2013年11月には、西日本エリア初の樹脂窓の供給拠点として、「六甲窓工場」の建設を決定。六甲窓工場は2014年中に操業予定です。

いずれの工場でも、YKK APの窓事業カテゴリーブランド「APW」シリーズ*の商品を生産し、全国的な省エネ意識の高まりに対応する高断熱樹脂窓の普及を図ります。

※ 生活者視点に立った窓産業の実現を目指すYKK APの窓事業カテゴリーブランド。これまで業界で一般的だったガラスとサッシ別々の提供から、YKK APが「窓」として責任を持ってお届けし、性能と品質を保証。業界初の10年保証やシリアルナンバーによる管理、アフターサービスなど、新しいビジネスモデルを提案しています。



東北事業所窓工場の完成イメージ



六甲窓工場の完成イメージ

日本企業14社の協力によるユニフォーム製作

ミャンマー代表選手団公式ユニフォームにファスナーを提供

2013年12月にミャンマーで開催された「SEA Games」*のミャンマー代表選手団の公式ユニフォームに、YKKでは、左右に引っ張るだけで簡単に開くことができる「簡易分離ファスナー」を無償提供しました。

これは、2012年の外務省文化交流派遣ミッションにおいて、ミャンマー大統領からユニフォームのデザイン・提供の相談を受けたデザイナーのコシノジュンコ氏に賛同したものです。

「動きやすさ」や「着脱のしやすさ」などにこだわったこのユニフォームは、日本の代表的な企業各社が参加し、オールジャパンで製作されました。

※ SEA Gamesとは、東南アジアスポーツ連盟(SEASF)が主催する国際総合競技大会です。東南アジア地域の友好・理解・平和とオリンピック運動の振興を目的として2年ごとに開催されています。



ユニフォーム贈呈式(2013年10月)



地域と描く未来のビジョン

世界の工場として、またメガマーケットとして、急成長を続けるアジア。YKKグループにとっても商品の重要な供給拠点であるとともに、トレンドの最先端をいくファッションアイテムの供給や高層ビルのファサード施工、事業を通じた社会問題解決など、さまざまなイノベーションの実験の場となっています。

サッカーを通じて子どもの健康と成長をサポート

YKKアジアグループ「キッズフットボールクリニック」

YKKホールディング・アジア社では、アジアグループの地域貢献活動として、地元の子どもたちにサッカーの楽しさを伝える「キッズフットボールクリニック」を2007年より毎年開催しています。

7年目となった2013年は、リアル・マドリッド財団と提携し、リアル・マドリッドのコーチの指導のもと、クアラルンプールとムンバイの2カ所で開催。現地の子ども計約300名がサッカーの手ほどきを受けました。参加した子どもたちは、世界トップレベルのサッカーを学ぶという貴重な体験に笑顔を輝かせていました。



ムンバイでのサッカー教室



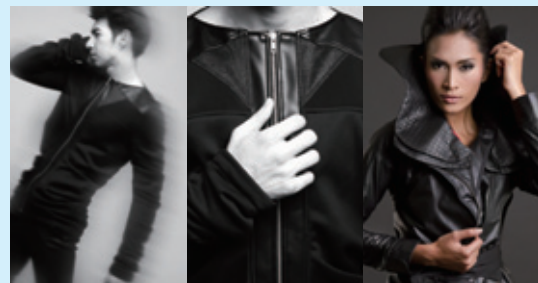
クアラルンプールでのサッカー教室

イベントの詳細と写真は、以下のウェブサイトからご覧いただけます。
<http://ykkasia.com/regional.htm>

地元服飾学校の卒業制作をサポート

YKKインドネシア社は、エスモード(フランスの有名服飾学校)ジャカルタ校と、2013年6月の卒業制作ショーを共催。卒業制作用にファスニング商品を提供し、インドネシア最大のアクセサリサプライヤーとしてのYKKの存在感をアピールする機会にもなりました。

同社では、ファッション業界の人材育成とファスニング商品の付加価値向上のため、地元の服飾学校とのコラボレーションを推進しています。



優秀作に選ばれた作品

高層ビルのカーテンウォール施工技術を世界にアピール YKK AP FACADEベトナム社が本格始動

YKK AP FACADE社は、APファサード事業の本部機能を担う中核会社として2008年4月に設立され、これまで所在地であるシンガポールを中心に高層ビルのカーテンウォール案件を手がけてきました。2013年7月にはYKK AP FACADEベトナム社を設立、同年10月の開所式をもって正式にスタートしました。

YKK AP FACADEベトナム社開設にあたり、社員に対してYKK精神、経営理念、コアバリューの理解を深めるとともに、コミュニケーション力の向上を目指し、FACADE本部と協力してワークショップを行いました。

新興市場として注目されるベトナムに拠点を設けることにより、更なる物件受注を目指します。これからもメッセージ性の高い超高層・高難度建築物のカーテンウォールに特化し、世界から指名されるグローバルブランド確立に向けて取り組みます。



開所式



ワークショップの様子

地域住民の教育と生活の質向上に貢献 ベストプラクティスを共有する

地元の小学校で「5S」授業

YKKフィリピン社は、地元バタンガス州セントトーマス市の小学校すべてを巡回し、「5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)」について教える活動を2006年より毎年行っています。

2013年の出張授業では、児童たちに「5S」に関する講義を行った後、授業の片づけを実践してもらいました。成績の良かったグループには、記念品として掃除用具セットをプレゼントしました。



授業の様子



YKKフィリピン社社員との記念撮影

地域住民にも定期健診を

YKKフィリピン社は、地域住民に定期健康診断を無償提供する医療支援活動を年1回、毎年行っています。定期健診は工場敷地を利用して行われ、受診者には健診のほか、待ち時間中に簡単な食事と子どもたちに対してはお菓子が振る舞われます。

地下水を守り、洪水も防ぐ

アジア地域では、河川のごみ堆積による洪水発生が各地で問題となっているため、YKKアジアグループ各社では、工場周辺河川の定期的な清掃活動を行っています。

また、YKKインドネシア社では、事業の井戸水利用による地下水位低下を防ぐため、2012年に雨水貯留浸透施設を作り、水の有効利用を図っています。この施設は雨水を地下に戻すことを主な目的として作られましたが、洪水対策としての可能性に着眼したデボック市長が2013年12月、視察に訪れました。



雨水貯留浸透施設を視察する市長

「品質生活」の提供

経済大国となった中国では、商品に対しても一歩先の付加価値が求められるようになってい
ます。より機能的かつ表現力豊かな衣服。環境と両立する、より明るく、快適な都市生活。中国事業
では「高品質生活の提供」をテーマに、ファスニング事業・AP事業の両方で、環境負荷を削減し
ながら、地域のニーズに合った商品を提供していきます。

急速な都市化が進む中国で拡大する内需に応える

都市化ニーズに応える省エネ性能の高い門窓商品を供給

第11回中国国際窓・カーテンウォール博覧会に出展

2013年11月、「第11回中国国際窓・カーテンウォール博覧会」が上海で
開催されました。この展示会で6回目の出展となるYKK APは、参加企
業430社中最大のスペースで意匠と省エネ性能を両立させた最新の商品
や、YKK AP独自のシステム販売モデルをアピールしました。また、新商
品では2013年に発売した中国高級住宅向け高性能断熱門窓「LD70シリー
ズ」や大開口テラス戸など、業界最多となる16アイテムを紹介しました。

急速な都市化が進む中国において、デベロッパーや生活者に向けた新し
い商品価値を提案し、快適で信頼できる住まいづくりに貢献します。

「採用したい窓」、YKK APが4年連続で1位に

2014年3月、YKK APは中国不動産協会より「2014年 採用したい建
材ブランド表彰」門窓部門の第1位に選出されました。製品品質だけでなく、YKK AP独自のビジネスモデルに対する高い評価が、4年連続での1
位選出につながりました。

都市化ニーズに応える新しい門窓工場が着工

YKK AP蘇州社は2002年の設立以来、門窓用部品、ビル用カーテン
ウォール、内需向けアルミ型材断熱門窓の製造供給を中心に成長してきま
した。近年は断熱性・気密性の高い門窓や高層ビル向けのカーテンウォール
商品の製造に力を入れています。2013年は新工場棟「門窓工場」の建
設を決定。同年9月に着工し、翌2014年9月の操業開始を予定しています。

新工場棟の建設に伴い、中国内需拡大に向けた効率的なラインを構築
するほか、施工研修所を設置し、現場における製造・施工指導人材の育成
強化を図り、門窓商品の最終品質をさらに高めていきます。



盛況だったYKK APブース



来場者に商品を説明



「門窓工場」完成イメージ

より良い商品づくりにステークホルダーの声を反映

顧客、デザイナーと一緒に商品価値を高める

上海YKKジッパー社では、服飾部品の用途と新しい使い方についてア
パレルメーカーやサプライヤーと意見交換することを目的に、「服飾部品技
術交流会」をほか3社と共同で2000年より毎年開催しています。2013年
9月の交流会では、7,000社以上が参加。「服飾部品が作り出す品質生活」
というテーマのもと、ファスニングとスナップボタンを中心に商品を紹介し
ました。

また、今年で9回目となるデザインコンペ「YKK東華杯」では、地元の
アパレル会社関係者に審査員を務めていただき、90点余りの作品を審査
しました。東華大学との共催による同コンペは、デザイナーの養成と同時
に、YKKの知名度向上にも貢献しています。



上海YKKジッパー社のブース



「YKK東華杯」出展作品

地域の人材育成と環境保全に注力

「企業品質」でも一歩先へ

人を育て、地域を元気に

YKK中国グループ各社では、設立以来、新卒採用・研修制度をはじめと
する人事管理制度を整備してきました。また、従業員コミュニケーションの
強化と企業文化の醸成により、良好な労使関係を維持。関心を持つ地元企
業への人事管理レクチャーを依頼されるケースも増えています。

さらにYKK AP蘇州社では、地元の小中学校の生徒を対象に、社内見
学を兼ねた環境教育を2005年より毎年実施。植樹や清掃活動も地元の
子どもたちと一緒にするなど、教育を重視した活動を続けています。



小学生を招いての環境授業(YKK AP蘇州社)

大気・水質汚染の軽減

中国地域で大気・水質汚染が深刻化する中、YKK中国グループ各社で
は、排出物の量と流れを定期的にモニタリングしています。また、YKKス
ナップファスナー無錫社では汚水の流出を防ぐため、雨水排出口にpH測
定器を設置しました。

他の事業所でも、モニタリングの結果や環境汚染に関する分析などをと
り、改善策を実施しています。

社会・環境報告書の作成

YKK中国グループ各社では、独自の社会・環境報告書を毎年作成し、環
境情報の公開によって、地域の信頼醸成とブランド価値の向上に努めてい
ます。



中国各社が作成した社会・環境報告書



一步先の品質を

欧州を中心にREACH*などの化学物質規制が強化され、市場からの品質要求も高くなっています。ファスニング事業では従来取り組んでいるエコテックス(OEKO-TEX®)製品認証に加えて、サプライチェーン全体での化学物質管理を推進する一步先の品質を追求しています。

* Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicalsの略。欧州化学品規制。

デザインと機能性でハイファッション分野を開拓

かつてない滑らかさを実現

欧州を中心としたEMEA地域では、2010年より「ハイファッション」を重点分野のひとつとして、高付加価値商品の開発に取り組んでいます。その成果のひとつが、イタリアで開発された「エクセラ(EXCELLA®)カーブ」です。かつてない滑らかな曲線を描く金属ファスナーとして各種の賞を受賞したほか、最高峰といわれる「ドイツデザイン賞2014」にもノミネートされました。受賞は逃したものの、発売直後から好評で、高級ブランドの衣類、かばん、靴などに採用されています。



EXCELLA®カーブ

防護服や救命器具向けの商品を紹介

水にも火にも強い、優れた耐久力をアピール

YKKヨーロッパ社では、ハイファッション分野を重視する一方、特殊な状況で使われる防護服や救命器具向けの商品の開発と紹介にも力を入れています。

2013年5月にイスタンブールで開催されたIDEF'13 第11回国際防衛産業フェアでは、「Fire(火)」「Aqua(水)」「Comfort(安心)」をテーマにブースを出展。さらに、2013年6月にミュンヘンで開催された「Techtextil 2013」(テクニカル・テキスタイル、不織布、防護服の国際見本市)では、「Fire(火)」「Aqua(水)」「Safety(安全)」「Unique(独創性)」をテーマに、耐水・耐火性の高いファスナーなどを紹介しました。

また、災害救助関係の見本市「Emergency Services Show」(2013年9月、バーミンガム)や、マリン関係の見本市METS(2013年11月、アムステルダム)にも、それぞれ出展しています。

Techtextil 2013で紹介した商品の例



Aquaseal®
防水ファスナー。ある程度の水圧にも耐え、ウェットスーツのほか、緊急時などさまざまな場面で使われています。



Quickburst®
素早く開閉できるファスナー。救命ボートなどに採用されています。

商品性能だけでなく、製造プロセスも重視

品質にこだわり続ける

YKK EMEAグループ各社では、2013年度より、コアバリューのひとつである「品質にこだわり続ける」を重点課題とし、「クレームゼロ・プロジェクト」を立ち上げました。商品だけでなく、日常業務の質を上げることで、事業におけるリスク管理の強化を図ります。

また、環境品質の面でも、省エネや化学物質管理、排水処理などを徹底しています。2013年6月には、繊維業界の国際規格団体であるエコテックス(OEKO-TEX®)よりサステナビリティ大賞(品質管理部門)を受賞しました。

サステナビリティ経営をアピール

It's not just a zip

YKK精神「善の巡環」に基づく地域貢献とサステナビリティ経営についてより多くの人に知ってもらうよう、YKKヨーロッパ社では2014年より「It's not just a zip(ジッパーだけでない、YKK)」キャンペーンを開始しました。顧客企業の協力も得ながら、衣料品の展示会などを通じて、YKKのこれまであまり語られてこなかった側面をアピールする考えです。

協力企業のひとつであるKJUS社のクリエイティブ・ディレクター、Nico Serena氏は、キャンペーンに賛同する理由として、「当社の作る商品は、品質だけでなく、倫理の面でも、ベストでありたい。だから、今回のキャンペーンに協力することにしました」と述べています。

スワジランドの社会経済の発展に協力

スワジランドでリール法*による野菜の自給栽培プロジェクト

YKKサザン・アフリカ社では、スワジランドで野菜を持続的に栽培するプロジェクトが始まりました。「食」と「健康」の基本的なニーズを満たし、さらに地域の教育と栄養の水準を高め、福祉と環境への取り組みを強化するのが目的です。同社の地域貢献活動チームのメンバーが地域住民の訓練を行い、畑づくりの進行を管理しています。

今後も、野菜畑をつくり維持していくための手段を提供し、継続的な技術支援を通じて地域住民の能力開発を図ることにより、スワジランドの社会経済の発展に協力していきます。

* あらかじめ肥料をしみ込ませておいたメッシュテープで種を包んで土に植える手法

ユニフォームと練習用器具を提供

地元の少年サッカークラブを応援

YKKポルトガル社では、地元の少年サッカークラブに、ユニフォームと練習用器具を提供。少年たちからは、感謝の証として、YKKのロゴ入りTシャツが額入りで送られてきました。



自動注入ポンプと溶剤回収装置(YKKフランス社)



「ISPO Munich 2014」用に作成したポスター
(ISPO Munichは世界最大級のスポーツ用品展示会)



種を包んだメッシュテープを植える様子
(YKKサザン・アフリカ社)



地元の少年サッカークラブの練習の様子と贈呈されたTシャツ
(YKKポルトガル社)





黒部とメーコンー40年の信頼の歴史

YKKがアメリカ南部メーコン市で現地生産を開始したのは1974年。アメリカ南部に初めて生産拠点を設置した日本企業として、その後の同地域における日本企業進出のきっかけをつくりました。地域レベルでも、メーコン市・黒部市の姉妹都市提携を通じて、学生をはじめとする市民の相互交流が続いています。

水資源保全と河川清掃活動

地域大切な水を守る

YKK U.S.A.社では、事業活動が地域の水源に与える影響を軽減するため、排水管理と節水の徹底を図っています。また、ジョージア州全体の河川清掃イベントに合わせて開催されるオクムルギー川の清掃イベント「Ocmulgee Alive!」に2008年から毎年参加。多くの従業員が河川周辺のごみ拾いに協力し、水資源保全に関する意識啓発に役立っています。

同じくジョージア州のダブリン市に立地するYKK APアメリカ社でも、地元のオーコーニー川清掃に参加。先進的な環境経営企業として、2014年1月に同市から「2013年環境遺産賞 (Environmental Legacy Award)」を受賞しました。



オクムルギー川の清掃

地域の歴史を刻む

メーコン工場40周年

2013年10月、YKK U.S.A.社メーコン工場40周年を前に、在アトランタ日本国総領事館の須永和男総領事と山光緑領事がメーコン市を訪問。YKK U.S.A.社を視察したほか、同社がスポンサーとなっている「メーコン桜祭り (Macon Cherry Blossom Festival)」の会場を視察しました。

また、同月、「2013年メーコン市最優秀企業賞 (Macon Industry of the Year Award)」受賞企業(21社)の1社にYKK U.S.A.社が選ばれました。同賞は、地域への経済的貢献に加えて、企業理念や社会貢献活動の面で優れた企業に対して贈られるものです。



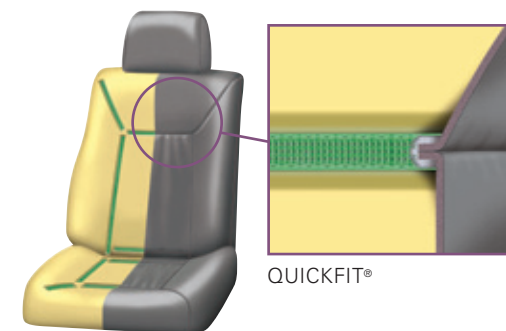
総領事ら訪問の様子

機能性と耐久性の追求

車社会にフィットする商品

北中米では、アパレル用のファスニング商品と合わせて、自動車用ファスニング商品の開発にも力を入れています。2013年には、「QUICKFIT®」(連続射出成形面ファスナー)が顧客先で加工ラインに自動供給するシステムの特許を取得しています。

また、1946年に創業し、1996年からYKKグループ会社となっている Tape Craft社では、自動車シートでの機能的役割を持ち、耐久性の高い引手ウェビングやシート表皮組み付けを補助する特殊ウェビングを生産。2013年には、特殊な製法による、高い衝撃吸収性を持ったフラットなベルト(特許出願中)を開発し、車社会の安心や更なる機能向上をサポートしています。



QUICKFIT®

地域の気候に合った商品の開発

地球に優しく、災害に強いビル・住宅用商品

1991年に設立されたYKK APアメリカ社。近年、環境に優しいビル・住宅づくりが課題となる中、同国のLEED基準*やEnergy Starを満たすビル・住宅用商品を提供する会社として認知度が高まっています。日本と同様、アルミ合金/樹脂からの一貫生産により高い品質を維持。また、使用後のアルミ/樹脂部分はリサイクル可能となっています。

寒さの厳しい米国北東部向けには、高断熱カーテンウォール・ストアフロント・窓商品に加え、光をコントロールする商品 (ThermaShade®、Luminance®)、またそれらをサブブランド商品群 enerGfacadeとして商業施設向けに展開しています。

このほか、米国のニーズに応じて開発した商品として、ハリケーンなどの衝撃に強い商品群 ProTek®(商業施設向け)・StyleGuard®(住宅向け)シリーズがあり、フロリダ・メキシコ・大西洋沿岸地区を中心に採用が広がっています。

* LEEDとは、米国グリーンビルディング協会 (U.S. Green Building Council) によって開発・運用されている建築物の環境配慮基準の認証制度です。(出典:CSR デザイン&ランドスケープ株式会社)



YKK APのStyleGuard®が採用された住宅



YKK APの高断熱カーテンウォールが採用された教育施設

40年の交流

今後も学生交流など、地域レベルでの交流を続けます。



「メーコン桜祭り」(2014年3月)



メーコンから黒部を訪問した学生たちとの交流



一人ひとりが大切にし、実践するコアバリュー

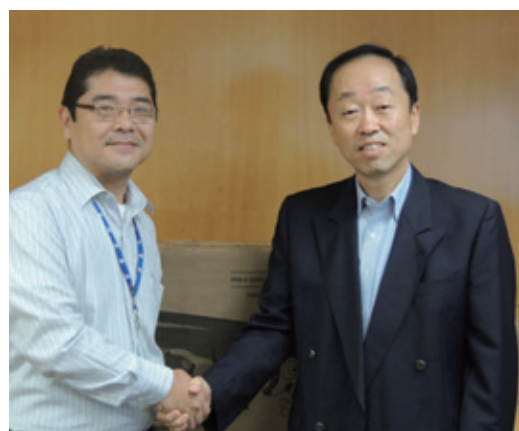
YKKグループには、「失敗しても成功せよ／信じて任せる」「品質にこだわり続ける」「一点の曇りなき信用」の3つのコアバリューがあります。私たちがもっとも「YKKらしい」と感じる価値感であり、仕事に取り組むときのすべての基本として、一人ひとりの社員がこの価値観を大切にしています。

社員のコンプライアンス教育

信頼は、私たちの姿勢から

南米各社では、コンプライアンスの徹底に向け、社員の意識啓発に取り組んでいます。2013年7月にはコンプライアンス推進スローガンの社内公募がYKKブラジル社、吉田ノルデステ社の合同で行われ、最優秀作に選ばれた「信頼は、私たちの姿勢から (Das nossas attitudes, a sua confianca)」を含む4点が表彰対象となりました。

ほかにも環境標語の社内コンテストが行われるなど、YKKグループ共通の価値観について「自分で考え、実践する」風土が定着しつつあります。



最優秀作受賞者(左)とYKKブラジル社 社長(右)

環境マネジメントに関する情報開示

環境・安全に対する姿勢をお客様にアピール

アパレル業界のCSR調達に対する意識が高まる中、南米各社においても、お客様の要望に応じて、排水管理など環境マネジメントに関する情報を提供できる体制をとっています。規制物質リスト(RSL)や紛争鉱物への対応も徹底するよう、サプライヤー評価も継続的に行っています。

また、YKKブラジル社AP事業部では、環境・安全への取り組みをお客様に紹介するパンフレットを作成。顧客とのコミュニケーションツールとして、YKKについてより多くの人に知っていただくのに役立っています。



事業所内で配布されているパンフレット

グループ 全体の取り組み

YKK Group Tree Planting Day

YKKグループは、2008年より世界環境デー(6月5日)に合わせて「YKK Group Tree Planting Day」を実施。「自然界との共生」を目指し、世界の各拠点において継続的な植樹活動を行っています。今では、従業員だけでなく地域も巻き込んだ活動を行っています。



地域ぐるみで、環境について考える

南米各社では、世界環境デーの前後を「環境ウィーク」として、その期間中、従業員と家族が一緒になって地球の未来を考えるイベントを2009年より毎年行っています。5年目となる2013年6月10～15日のイベントでは、環境研修や植樹のほか、子どもたちも楽しめるようリユース材を使ったものづくり体験や環境をテーマとした絵画コンテストを実施しました。

YKKバングラデシュ社では、地域の小学校を巻き込んでの植樹イベントを実施。2013年は夏期休校中にもかかわらず、300名の児童が参加し、約1,200の木を植樹したほか、それぞれの自宅に苗木を持ち帰りました。

また、中国・アジア地域でも、小学校での記念植樹や苗木の贈呈を各拠点で行っています。



地域の子どもたちも植樹に参加

植樹イベント周知ポスター

YKKエルサルバドル社では、植樹イベントの周知ポスターを作成し、従業員の意識啓発・向上につなげています。

2013年は20名の従業員により500本を植樹。深刻な森林減少に直面する同国で地道な植樹活動を続けています。



グローバルに広がる「YKKの森」

各拠点では、「YKKの森」づくりを目指した取り組みが行われています。

YKKトルコ社では、数年後には植樹した木が成長し、敷地内が埋め尽くされる見込みで、別の場所に新たな「YKKの森」をつくることも考えています。

YKKスリランカ社では、自生種を中心にこれまで150本の木を植樹。年中果物がなり、社員にとって憩いの場となっています。いずれは鳥が巣を作るような「小さなジャングル」に成長するよう整備に取り組んでいます。



YKKトルコ社

事業活動の環境負荷低減

YKKグループは、1994年9月に「YKKグループ環境宣言」を制定し、事業活動のすべての領域で環境活動に取り組んでいます。また、2001年度より中期の環境経営方針・環境政策を4年ごとに策定。2013年度からの第4次中期環境経営方針では、コーポレート・ガバナンス、グリーンイノベーション、環境価値の創造、持続可能性を重点テーマとした環境政策を進めています。



YKKグループ第4次中期環境経営方針(2013~2016年度)

—持続可能な社会づくりへの貢献— 小エネ・省エネを追求したものづくりの創造

YKKグループは、環境宣言に則り、環境に配慮し、技術力を活かした新しい価値を創造することで、持続可能な社会づくりへ貢献してまいります。

4つの重点テーマ



グローバルな環境マネジメントの強化

YKKグループでは、環境経営の質の向上を目指し、環境コンプライアンス・ガバナンスを確認することでグローバルな環境マネジメント体制の強化を図っています。

YKKグループ環境経営監査(国内・海外)

環境政策委員会のもと、グループ環境経営方針・政策の確実な執行、ならびに環境コンプライアンスを維持・向上するための環境経営システムの実施状況を検証し、不足点を改善します。

環境相互監査(海外)

各極の統括責任者のもと、各地域の環境関連法令や文化の違いを踏まえ、極内の各拠点がお互いに遵法性、環境活動を検証し、環境コンプライアンスの維持・向上、環境リスクの低減を図ります。



AP四国事業所 環境経営監査



EMEA地域 環境相互監査

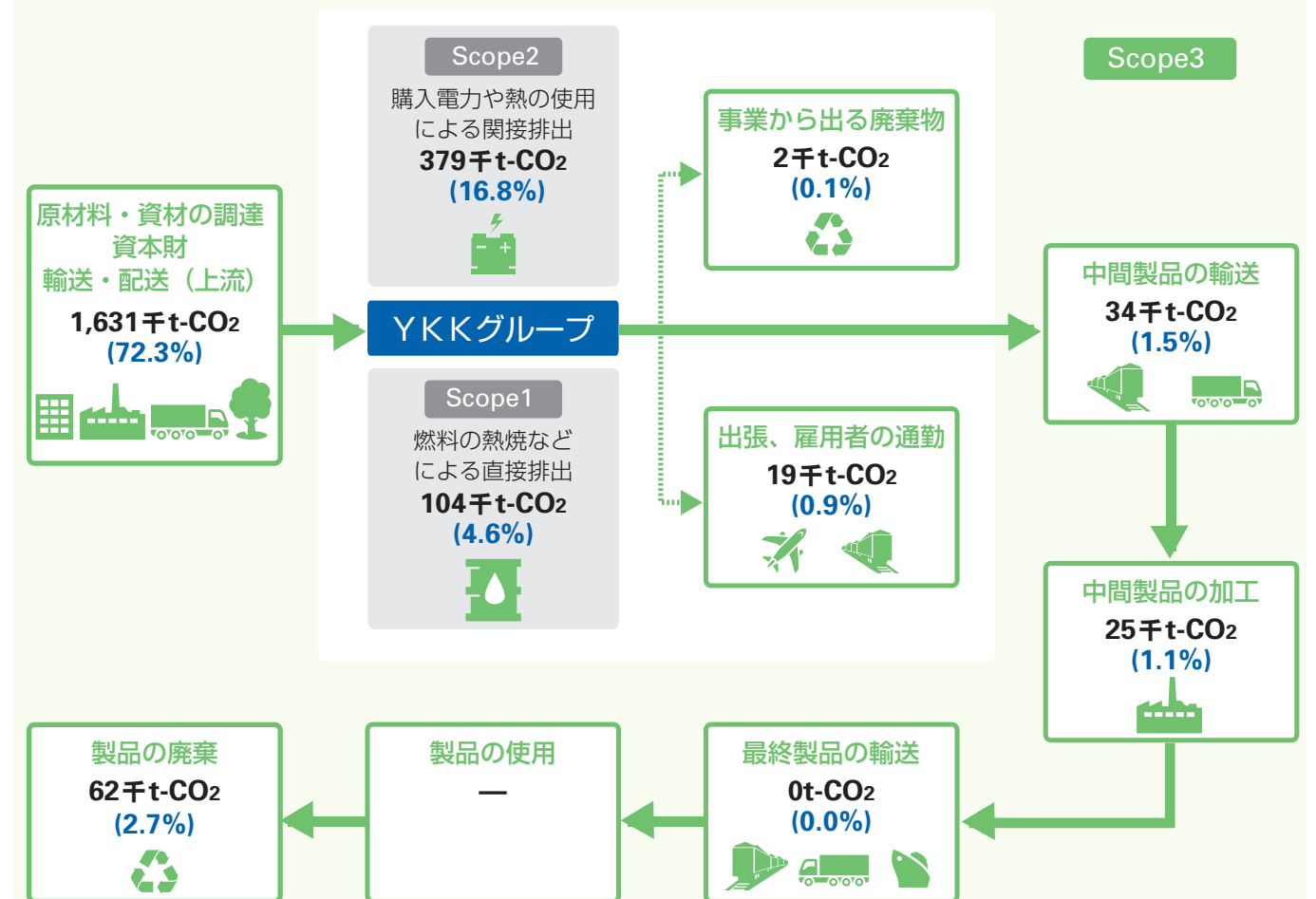
サプライチェーンを通じての排出管理

YKKグループでは、サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量を算定・報告するための国際基準「Scope3」を2013年度より導入。従来の直接排出(Scope1)と購入電力や熱の使用による間接排出(Scope2)に加えて、資材調達、中間製品の加工、輸送、製品の使用と廃棄に伴う温室効果ガス排出量を算定しました。その結果、原材料・資材の調達に伴う排出が、YKKグループで70%を占めることがわかりました。



これを受けて、2014年度は、原材料・資材調達の部分に焦点を当て、各事業で排出削減に取り組めます。

サプライチェーンにおける2013年度CO₂排出量(YKKグループ)



(注) 算定方法等の詳細は、環境省グリーン・バリューチェーンプラットフォームの取組事例(YKK、YKK AP)に掲載されています。
http://www.gvc.go.jp/business/case_smpl.html

事業による生態系への影響を継続的に調査し、その低減に努めるとともに、環境リスクを低減するため、環境債務の処理に取り組んでいます。

生物多様性の保全

YKKグループ内における生物多様性の理解促進

YKKグループでは事業活動における生産や土地利用が生物多様性に与える影響を把握するため、「YKKグループ生物多様性影響評価マニュアル」を作成し、国内主要生産拠点の評価を実施しています。今後は評価結果の向上を目指した取り組みを各拠点で行ってまいります。

また、従業員の生物多様性への理解向上を目的に作成した「YKKグループ生物多様性ガイドブック」を活用しながら、今後も生物多様性への理解を深めつつ、保全に努めます。

「かんたんHEP」を用いた緑地評価

黒部事業所では黒部川扇状地の自然を再現しようと、近隣の山野で樹木の種子を集め「ふるさとの森」「ふるさとの水辺」を2008年に造成しました。ふるさとの森・水辺は順調に成長し、現在では希少生物をはじめ、さまざまな生物が生息しています。造成5年を迎えた2013年は、現段階での課題や今後の活用方法について、関係者一同で再整理しました。特に生物多様性向上に向けて、黒部川扇状地の代表的な魚であるトミヨや、扇状地内での生息数が激減しているゲンジボタルやカワセミが生息できる環境を目指して、今後改修を進めていくことにしました。改修にあたっては、生物視点で生息環境を評価する富士通エフ・アイ・ピー株式会社様の「かんたんHEP」(制作・監修：東京都大学環境学部 田中章教授)を用いたふるさとの森・水辺の評価結果を基に計画を立てています。その第一歩として、地元で採取したゲンジボタルが産んだ卵を孵化、育成し、2014年3月に約80匹を放流しました。今後の改修でさらにさまざまな生物の生息地となった時には、地域の子

どもたちの遊び場や、研究者の研究フィールドとして活用してもらいたいと考えています。

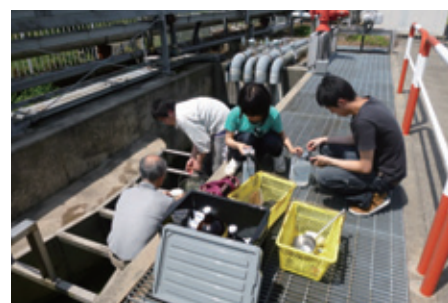
工場排水の影響調査

工場排水については、水質汚濁防止法や自治体で定められた排水基準を順守するため、YKKグループ独自の自主管理基準を用いた排水管理を世界各地で行っています。

特に中核拠点のある黒部事業所は、黒部川の恩恵により豊富で清浄な水に囲まれた黒部川扇状地に立地していることから、黒部事業所では水生生物調査による河川の汚濁状況の確認を10年以上続けています。水生生物調査は生息する水生生物(昆虫の幼虫等)から水質を判断する手法です。2013年は富山県内でも個体数が減少している絶滅危惧Ⅱ類のカマキリ(アユカケ)を採取しました。調査開始以来、評価結果に大きな変化はありませんが、徐々に河川環境が向上していると考えられます。

また、排水の影響をさらに詳しく知るため、富山県立大学の協力を得ながらWET試験*による評価も導入しました。2014年度は、国内主要生産拠点でのWET試験実施を計画しています。

* Whole Effluent Toxicity(全毒性影響評価)：排水をひとつの混合物と捉え、藻類、甲殻類、魚類への影響を評価する試験



富山県立大学によるWET試験(採水)



採取されたカマキリ(アユカケ)



ホタル放流の様子

環境債務

適正管理と処理の推進

YKKグループではフロン類、アスベスト、土壌汚染およびPCBを環境債務として取り扱い、適正管理と処理を行っています。

PCB対策

YKKグループの高濃度PCB(ポリ塩化ビフェニル)含有機器は2008年より処理を開始し、2013年度末までに667台中608台の処理を行い、全国3拠点にある残り59台(2014年3月末現在)についても、適正に処理を行ってまいります。

微量PCB含有機器については「YKKグループ微量PCB含有機器取扱指針」に基づき、適正な保管・管理を行っています。2013年度は全国に処理施設が増えたことを受け、現在処理することが可能な微量PCB含有機器(379台)の処理費用を引当金として計上しました。今後も適正な保管・管理を維持しながら、早期処理に向けて取り組んでまいります。

現在までの処理費用：約3.6億円
残りの推定処理費用：約0.5億円

(注)いずれも高濃度PCB含有機器処理費用のみ

現時点での処理費用(微量PCB)：約5.7億円

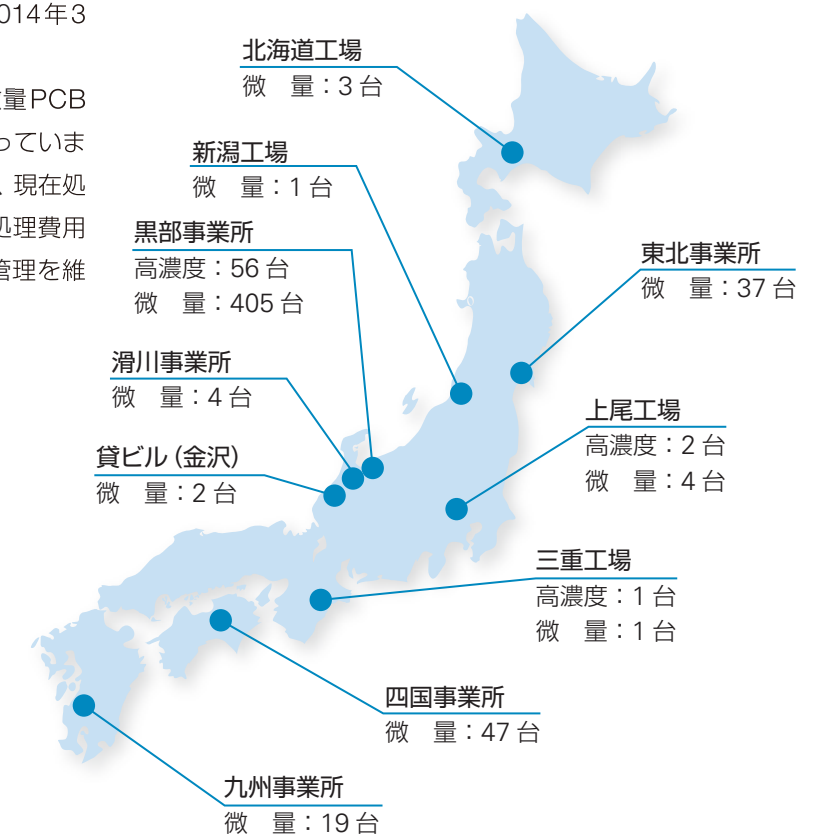


黒部事業所 微量PCB含有機器保管庫

海外環境債務

YKKグループでは海外拠点における環境債務を把握するとともに、健康被害につながる可能性がないことを確認しています。今後も、各拠点において適正な保管・処理を行いつつ、各国の状況を考慮しながら処理を推進していきます。

YKKグループ PCB含有機器保有状況(2014年3月末現在)



データ編もご参照ください

CO₂その他の排出物管理や環境負荷削減PCB以外の環境債務(フロン対策、アスベスト対策、土壌汚染)に関する取り組みについては、ウェブサイト掲載の「データ編」(PDF)にて詳しく開示しています。

データ編掲載項目

- 基本指標/人事・安全衛生
- リスク情報
- 環境マネジメント
- 環境負荷情報



<http://www.ykk.com/japanese/corporate/csr/eco/report/index.html>

地域社会の中のYKKに期待すること



YKKグループは、対話を通じてステークホルダーの皆様と意見を交換するステークホルダー・ダイアログを2010年より毎年開催しています。第5回目(2014年4月9日)のダイアログでは、前年に引き続きファシリテーターとして富山県立大学教授の九里徳泰先生をお迎えし、調達先から取引先、消費者、地域社会、環境団体、学生などあらゆる層のステークホルダーと意見を交換しました。

参加者の皆様(敬称略)

- <ナチュラルリスト>
八木 秀治
(黒部峡谷ナチュラルリスト研究会 副会長)
- <消費者>
稲垣 里佳
(富山県地球温暖化防止活動推進員)
- <近隣自治体>
高本 美智子
(黒部市役所 市民生活部市民環境課 課長補佐・環境係長)
- <環境団体>
万尾 和恵
(公益財団法人やま環境財団 協働交流課長)
- <地域住民>
中村 敏幸
(村精自治振興会 副会長)
- <調達先>
坂本 信行
(関西ペイント販売株式会社 北陸営業所 富山グループ)
- <ファスニングお取引先>
長沢 良樹
(株式会社ゴールドウィン 内部監査室 担当マネージャー)
- <APお取引先>
平野 明
(平野工務店株式会社 代表取締役)
- <学生代表>
大石 直人
(富山県立大学工学部環境工学科4年)
- <海外留学生(中国福建省)>
金 俊
(富山県立大学大学院工学研究科環境工学専攻2年)
- <ファシリテーター>
九里 徳泰
(富山県立大学工学部環境工学科 教授)

黒部事業所の「ふるさとの森」を見学後、3つのグループに分かれ、ワークショップ形式でステークホルダーとYKKグループ社員との意見交換を行いました。

「ふるさとの森」の活用に関するご意見

ワークショップ前半では、「ふるさとの森」を中心に黒部事業所見学の感想を述べ、「良かったこと」「もっと良くしたいこと」について話し合いました。



「ふるさとの森」がある黒部事業所の「YKKセンターパーク」は、産業観光スポットとして、一般開放されています。その中を見学していただき、気付いた点を述べていただきました。

“YKKセンターパークは一般開放されているが、ゲートが入りづらい感じ。ゲートを何とかしてほしい”、“あまり知られていないのはもったいない。もっと地域の人にPRを!”といった意見が多くの方から集まりました。



ゲートが入りづらい印象。もっとフレンドリーな門構えにしてみても?

“「ふるさとの森」の成長を実感した”との感想がありました。“工場の駐車場や屋根なども含めて、敷地内全体が緑になればもっとよい”、“社屋の屋上を開放して、森を見下ろせるようにしては?”といった意見も聞かれました。



“景観がすばらしい”という意見がある一方で、“YKKグループの社員だけでなく、地域住民と一緒に森づくりをする仕組みができないか”との意見がありました。



社屋の屋上を開放して、森を見下ろせるようにしては?

YKKが未来に向けて発信できること

ワークショップ後半では、「ふるさとの森」の活用に関して、ESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な社会づくりのための教育) の可能性を中心に意見を交換し、集約した意見を発表しました。



“気づき”の創出の場

関心の無い層をいかに巻き込むか—PRに工夫を

風景写真コンテストなどのイベントは、幅広い人々に興味を持っていただくきっかけになりそうです。「とやまエコキッズ探検隊」など社外向けのイベント以外に、社員とその家族向けのイベントもあつたらよいと思います。YKKグループの社員



さまざまな在来種の木が植えられた「ふるさとの森」

がまずこの取り組みのことをよく知った上で宣伝大使として周囲にアピールすれば、もっと広がっていくのではないのでしょうか。社会も自然の生態系もお互いのつながりで成り立っています。そうした「つながり」を確認する場にもなると思います。学校などでの教育活動(出前講座など)にも期待したいです。



“みんなで森をつくる心”を育てる場

地域のコミュニケーション、「つながり」を生むきっかけに

あらゆるステークホルダーが何らかの形で森づくりに関与できる仕組みはできないでしょうか? たとえば、新入社員が毎年入社式で記念植樹を行えば、全社的な取り組みとしてより浸透すると思います。また、地元の小中学生による植樹も教育のために良さそうです。さらに地域の住民にボランティアとして整備に参加してもらうのはいかがでしょうか? 「ふるさとの森」を自然遺産として未来に継承するためにも、“みんなで森をつくる心”を育てることが重要です。この取り組みが国内外に水平展開され、地球環境を守る輪ができることを期待しています。



「地球環境を守る輪」をイメージして貼られた提案



“産業「環境」観光のモデルに”

地下水熱利用など、黒部ならではの取り組みを紹介する場にしては?

黒部事業所は、工場見学だけでなく、環境や防災などの側面も取り入れた総合的な学習の場として活用できそうです。地下水熱利用など、黒部という地域の特性を活かした取り組みを紹介するために、地中熱交換器のモデル展示や黒部市吉田科学館とのコラボレーションをしてみても面白いのではないのでしょうか。ここには立



ダイアログ会場となった「丸屋根展示館」の空調に利用される地中熱交換器

山という観光資源がありますが、「ふるさとの森」もホテルや桜の名所としてアピールできると思います。ホテルの季節には開放時間を延長するなど、よりたくさんの方が訪れやすいようにして、公共スペースとしてもっと活用されることを期待します。



ステークホルダーからのご意見を踏まえて(2010～2013年度)

ご指摘・ご意見	YKKグループの対応
コンプライアンス	
1. 海外を含めたコンプライアンスの向上	●各極でのコンプライアンス体制の構築と環境相互監査の実施
2. 社員の意識や倫理観の向上	●YKKグループ共通の経営倫理の浸透を目指した座談会の実施
3. 「倫理なくしてコンプライアンス無し」	●地域の状況に応じたルールの策定と運用
4. ものづくり=人づくり	●技術研修室(ファスニング)、技能道場(工機)、保全道場(AP)における技能の伝承
エコプロダクツ(ものづくり)	
1. 商品を通じた社会への貢献	●安全・防災など社会のニーズに応える商品の開発・供給
2. 感性工学、ユニバーサルデザインの発想	●高性能樹脂窓「APW330」と「APW430」の発売
3. 低炭素・循環型社会、社会ニーズへの対応	●溶接を用いないサッシ施工方法「非溶接工法」により省力化・職人不足を解消
4. 不良品・廃棄物の出ないものづくり	●リサイクルファスナー「ナチュロン」を使用したファスナー付き緑化袋の開発
環境負荷低減	
1. 低炭素社会への対応	●地中熱利用空調システムの導入 ●スコープ3によるCO2排出量算定を2013年度より開始
2. 化石燃料に頼らない、新エネルギーへの対応	●「パッシブタウン黒部モデル」プロジェクト
3. 工場における環境対策の更なる推進	●古御堂工場の再構築、工機部品工場の再構築
地域社会	
1. 協働のベストプラクティス提案 (ESDの活用など)	●清掃活動、東北復興支援ボランティア活動などの継続的展開 ●地元小学生を対象とした「とやまエコキッズ探検隊」を2012年度より実施 ●行政・大学との協力による地下水調査
2. 個人の能力の社会への提供	●保育所での環境教育や「くろべ水の少年団」の水生物調査協力
3. 各種出張授業	●各種協会などへの出向
環境コミュニケーション	
1. ものづくりの成果の「見える化」	●社外表彰制度の活用など積極的なコミュニケーション活動の推進
2. 社外への環境情報公開	●環境展示会への出展、情報発信
自然界との共生	
1. 植樹の意味と最終目標	●「ふるさとの森」づくり(2008年度から植樹を開始)
2. 地域の生態系の中でビオトープづくり	●森の成長を知るために2011年度より5年ごとに生き物調査を実施する予定
3. 「ふるさとの森」とビオトープの活用方法	●ふるさとの森・水辺のコンセプトを策定し、5年後に向けた整備プランを策定
4. 地下水の使用による近隣地域への影響	●地下水の現状把握と将来予想の調査・研究委託を2010年度より富山県立大学に依頼
5. 黒部川扇状地全体を見据えた、地下水利用調査	●調査結果は黒部市の水資源政策の一環としてすべて開示

YKK精神「善の巡環」

他人の利益を図らずして自らの繁栄はない

企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。YKKの創業者吉田忠雄は、事業をすすめるにあたり、その点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって、事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり社会貢献できるという考え方です。このような考え方を吉田忠雄は「善の巡環」と称し、常に事業活動の基本としてまいりました。私達はこの考え方を受け継ぎ、YKK精神としています。

経営理念「更なるCORPORATE VALUEを求めて」



YKKは、更なるCORPORATE VALUE(企業価値)を求めて、7つの分野に新たなQUALITY(質)を追求します。

ステークホルダー・ダイアログを通して



くりのりやす
九里 徳泰
(富山県立大学工学部環境工学科 教授)

YKKグループ ステークホルダー・ダイアログは、2010年より開催し5回目となりました。その間に、ステークホルダーの言葉に真摯に応え、東北事業所への導入、更なるステークホルダーの拡充、新しいテーマへの挑戦を行い、5年間継続して行ってきたことを高く評価します。この5年で社会環境は大きく変化しました。サプライチェーン、特に供給網の上流にかかわる社会責任経営の必要性や本年11月に名古屋で開催されるESD(Education for Sustainable Development)ユネスコ世界会議では、世界から国際的な視点に立ち持続可能性を考えることのできる企業人材に注目が集まっています。YKKグループは昨年より社員も参加するワークショップ形式を開始し、本年は企業におけるESD活動を課題に参加者全員で取り組みました。これまでのYKKグループの地域との協働による環境活動をESDの視点でとらえなおすという「YKK×ESD」という新たな価値創造ができたと思います。黒部事業所のビオトープの生物多様性も年を追うごとに豊かになってきています。今後は10年継続を目標に更なる前進をしていただきたいと思います。

「企業の社会的責任」サイトを開設しました

本業を通じた持続可能な社会への貢献に対するグループ方針を紹介する「企業の社会的責任」サイトを2014年3月に開設しました。ガバナンス体制やコンプライアンスの詳細については、このサイトをご覧ください。

サイト掲載項目

- トップメッセージ「YKK精神に基づく企業の社会的責任」
- YKKグループの活動
 - 組織統治
 - 人権・労働慣行
 - 環境
 - 公正な事業慣行
 - 消費者課題
 - コミュニティ参画



<http://www.ykk.com/japanese/corporate/csr/index.html>

(注) 財務情報については、ウェブサイト「会社情報」をご覧ください。
<http://www.ykk.com/japanese/corporate/financial/index.html>